

事業報告書



特定非営利活動法人 W i N G-路をはこぶ

the Way Into the New Generation !

W・I・N・G !

2010 年度

東日本大震災と私たち

東日本大震災を経て、日本の社会は大きく変化しています。例えば、原子力発電は環境施策の中心だったものが、一転、脱原発へ。すべての放射性物質に関して拒絶反応が社会を覆っています。

反原発運動はずっと以前からありました。地震対策への指摘もずっと以前からありました。にも関わらず、反原発が受け入れられなかったのは、大きな事故がなかったからでしょう。一方、現在の反原発は原発事故が起きたためでしょう。

私たちの社会は想像力を失ったかのようです。目の前に実際の物事が起きなければ、どんなに議論を尽くしても社会では受け入れられない、信じられない。そして、その事態を受けた感情がすべてを決定していきます。議論の当否、是非は、“被害者”“当事者”の感情によって決せられます。一方、その結果責任は行為者へと流れるため、誰もが行動に臆病となり、社会は停滞から抜け出せないようにも見えます。

私たちの活動は？

誰かが働き、誰かが税を払い、誰かが法・制度を作り、誰かが支えてくれる。そんな前提になっていないのでしょうか。

“想定外”は起きる。

想像力を発揮し、私たちは重症心身障害者の地域生活を支えるという活動を継続、発展させる。東日本大震災を経て、私たちは想像力を再び得ることができるのでしょうか。

私たちの活動が“笑顔”で支えられるものへ。そのための想像力を得たいと願います。

特定非営利活動法人W・I・N・G - 路をはこ

代表理事 菅野 眞弓

～ 目 次 ～

活動報告

ホームヘルパー派遣事業	4
国際交流事業	4
地域交流事業	6
映画	6
フリーマーケット	7
“Tamariba”コンサート	7
“Tamariba”クラブ	9
講座	10
見る倉庫	10
グループホーム準備施設“もくもく”	11
成年後見人	11
被災地支援	12
SENDEX2010	13
スタッフ採用	13
2010年度への課題	13
社員総会の開催状況	15
理事会の開催状況	15
決算報告	16
監査報告書	18
添付資料(チラシなど)	

事業期間

2010年4月1日 ~ 2011年3月31日

事業の成果

《非営利活動》

【ホームヘルパー派遣事業】

重度訪問介護などの派遣要請が今年も多くありました。派遣を新たにスタートさせる一方で、お断りするケースも多くありました。派遣要請の時間帯は、朝あるいは夕方に集中します。重症心身障害者へのケアには一定程度の経験が必要となり、単なるアルバイト感覚のヘルパーを派遣することはできません。現在私たちは常勤スタッフによる派遣を行っており、このため派遣できるケースの数にはおのずと限界が出てきます。

常勤スタッフによる支援の評判が新たな要請につながるものの、常にスタッフ不足となる状態を改善することは難しい状況です。また、日曜・祝日などの派遣も課題です。スタッフの休日確保の観点と、利用者支援充実の観点とが対立する形となっています。

記録の簡素化が必要です。かなりの長文で記入するケースが多いのですが、他のスタッフに引き継ぐという視点、読み返しの視点に立つと、もう少し簡素化すべきであり、その指導を徹底する必要があります。

【国際交流事業】

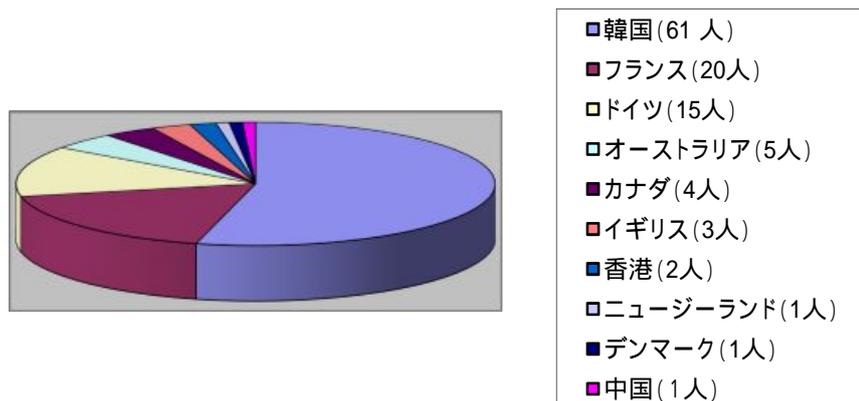
ここ数年来日が減少していた韓国から今年度は多くの若者がやってきました。一方、ドイツ、フランスがやや減少。新たにワーキングホリデー制度ができた香港からは2年が活動を開始しました。

3月11日発生した東日本大震災では、やはり原子力発電所の事故の影響があり、香港2名、韓国1名の計3名がすぐに帰国しました。素早い決断には、利用者さんもスタッフも驚かざるを得ませんでした。

慣れない外国での原発事故、また母国の家族からの帰国要請もあったのです

が、“帰国”という選択が外国人スタッフにはあるのだという当たり前のことを再確認させられた出来事で、残念でなりませんでした。

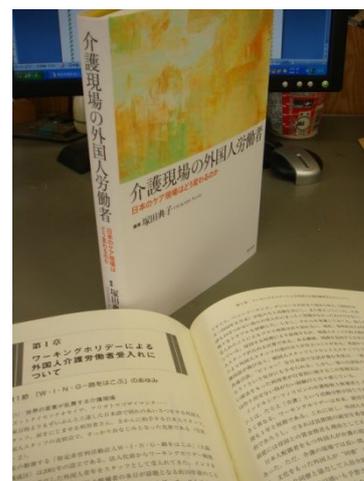
今年度新たに受け入れたのは、韓国人 9 人、ドイツ 3 人、フランス 2 人、オーストラリア 2 人、香港 2 人の計 18 人です。受け入れ開始以来の出身国別人数は下図の通りです（同上）。



一方、ミーティングでは、外国人スタッフの参加をうながすために、引き続き英訳、韓国語訳の資料を準備しました。また新たに今年度から、大阪歯科大 E S S クラブの学生がミーティングに参加し、通訳ボランティアを行いました。しかし、定期試験などがあり、参加は安定しませんでした。外国人スタッフのミーティング参加促しは課題です。ミーティング時に手持ち無沙汰にしている姿が目立ちます。外国人であってもミーティングに参加でき、意見を述べる機会が設けられているのだという利点を感じてほしいと思うのですが、法人も参加意欲を高める工夫が必要です。

介護現場における外国人スタッフの存在は、インドネシアやフィリピンの介護福祉士候補者の来日以降、これまでもまして注目されるようになっていきます。そこで、当法人の外国人スタッフ受け入れの経験を生かそうと、日本大学の塚田典子教授と協力し、「介護現場の外国人労働者」を明石書店より出版しました。

受け入れの経過や当法人のかかえる課題などを網羅しました。変化の速度が速い領域だけに、今回の出版はいいタイミングだったと思われます。一般書店のほか、アマゾンなどのネット書店でも販売されています。



地域交流事業【フリースペース Tamariba (たまりば)】

障害者と地域との新しい交流の形を企図したフリースペース“Tamariba”。交流のための交流に陥りがちな“施設行事”を避けようと、利用者と地域の方々と同じ参加者という立場で参加、交流する企画を打ち出しています。

日々の活動をこなしながら企画を実行するには相当の自律心がスタッフに求められます。よりスタッフが企画・実行しやすい環境づくりが、従前と変わらず発展のための課題となっています。障害者の方を直接支援することは、目の前の課題がはっきりとしており、スタッフも参加が用意ですが、Tamaribaの活動のように、ある場面ではビジネス的才覚が求められる活動については、まだまだ“未熟”の段階を脱しきれていません。

今年度も映画鑑賞会、フリーマーケット、コンサート、車イスダンス、Tamaribaクラブなどの活動を行いました。

映 画

月 1 回の上映を継続していますが、施設内行事の域を越えることができませんでした。より多くの地域の方々に Tamariba に足を運んでいただき、一見、福祉とは無関係な映画鑑賞を通じて、重症心身障害者の存在を地域に知っていただくことを目的に開催しています。また、「コミュニティシネマ」としてしっかり地に足をつけた活動を継続するには、担当スタッフの不断の努力も欠かせません。地域に向けた情報発信、PR 方法に改善の余地を残しています。

2010 年度 Tamariba 映画鑑賞会での上映作品

4 月	男はつらいよ
5 月	
6 月	男はつらいよ
7 月	カールじいさんの空飛ぶ家
8 月	OCEANS オーシャンズ
9 月	おばちゃんチップス
10 月	ワンピース - STORONG WORLD
11 月	アイアンマン 2
12 月	銀色のシーズン
1 月	ヒックとドラゴン
2 月	ダーリンは外国人
3 月	名探偵コナン～天空の難破船

フリーマーケット

「買っていただく」「買ってあげる」という関係性

が生じるバザーでなく、参加者全員が対等な関係で活動を行うフリーマーケットは、大切なフリースペースの活動に成長してきました。

福祉作業所の出店数、地域の方の出店数がちょうどいいバランスとなっておりますが、開催日によっては、出店者、来客の確保が難しい時があり、課題を残しました。「キッズコーナー」やイベントは引き続き開催しています。劇的に客数が増加するところまでにはいきませんが、出店者にも好評で、来年度も継続開催の予定です。

売上が数万円となる出店者もある一方、厳しい状態のブースも。イベントだけでなく、テーマを絞った開催も検討の必要があるでしょう。例えば、手作り品だけのフリーマーケットを開催、広告を手芸雑誌に掲載する 地域の少年スポーツチームの資金稼ぎのためのフリマ 幼稚園や保育園、学童、小学校のPTAなどの連合フリマ...など、フリーマーケットの出展にも工夫が必要です。

2010 年度フリーマーケットの開催状況

開催日	参加ブース	イベント	1 ブースの売上平均
4 月 29 日	14	ネイチャークラフト（松ぼっくり）	約 3800 円
6 月 13 日	17	大道芸（笑楽）	約 4000 円
8 月 29 日	15	大道芸（笑楽）	約 6500 円
10 月 24 日	16	ハロウィーンの飾り作り	約 5000 円
12 月 23 日	12	サダテンダー（音楽）	約 5000 円

コンサート

年 4 回の“Tamariba”コンサートもほぼ定着し、さまざまな音楽会の方々が Tamariba で素晴らしい音楽を奏でてくださいました。

一方、利用者が地域の方々と交流する手段としてのコンサートに関しては、事前のPRがまだ徹底できず、不十分なものとなっています。掲示板の利用のほか、他の Tamariba イベントと合わせたチラシを作成、配布するなどの工夫にはまだまだ改善の余地があります。

音楽家の方々と重い障害を持った方々との交流の場としての活用を図るため、クラシックに限らず、より広範囲な音楽家との協力関係を気付いていく必要があります。

Tamariba コンサート

開催日	タイトル	出演者ら
6 月 12 日	フルートカルテット	北田絵里 木南有貴

	espoir	佐古理実 西谷小百合
9月25日	打楽器&ピアノ	大藪真紀子 阿萬真希 池邊雅美
1月22日	新春コンサート	三原啓史 若松裕子 誓山由樹 若松駿平
3月26日	春休みコンサート	ヴェラティ幸子 原茉莉 辻川華 松田祐季 大藪真紀子



ホームコンサート

生の音楽を直接自宅に届ける「ホームコンサート」は4年目です。クラシックコンサートへの参加が難しい重症心身障害者宅に音楽家を派遣、誕生日や親の結婚記念日に合わせることで、障害者から皆への音楽のプレゼントという形態をとります。また日常には重い障害を持った方々と出会う機会の少ない音楽家が彼らと家庭で出会う機会の提供を企図しています。

今年度は6回のホームコンサートを開催しました。一般家庭でのコンサートでは、音楽家の方が家庭に入ることになり、抵抗感を持つ方もいないわけではありませんが、少しずつ活動が根をおろしつつあります。



5月22日	堀田久美さん 若松裕子さん
6月14日	堀田久美さん 若松裕子さん
7月14日	大藪真紀子さん 若松裕子さん
8月4日	辻川華さん 前田満さん 大藪真紀子さん
9月25日	堀田久美さん 若松裕子さん
10月30日	辻本恵理香さん 辻本明日香さん

Tamariba クラブ

地域の子供たちとの交流を図る Tamariba クラブも4年目。外国人スタッフも参加するなどして、活動にもバリエーションが増えました。一方、習い事の多い子供たちがなかなか参加できない曜日などもあり、参加者数にバラつきがありました。開催日やPRなどに今後さらに工夫が必要と感じられました。

今年度はクリスマス以外にも外国人スタッフが参加。利用者さんの自然な参加を工夫するなど、“交流”について積極的な試みを行いました。まだ内容についても、子どもたちが興味を示すような“ものづくり”を心がけました。

2010年度たまりばクラブ

開催日	内容	一般参加	利用者参加
5月29日(土)	クレイ粘土で作ろう	12人	4人
7月29日(木)	紙すき	11人	4人
11月27日(土)	たまりば留学・クリスマス	10人	6人
3月24日(木)	マカロニ写真立て	2人	6人



講座

Tamariba 講座

今年度は3回の開催。スタッフが懇意にしているロビンソン・クミさんにお越しいただき、スタッフ対象にヨガを指導いただきました。

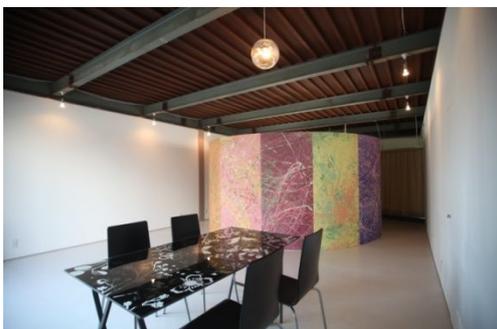
ゆったりと過ぎる時間のなかで、参加したスタッフも普段の慌ただしく過ぎる時間を忘れて、自身の身体を向き合うことができました。

また日頃から口腔ケアでお世話になっている村田歯科医に意外に知らない口腔ケアの常識について講義いただきました。



開催日	タイトル	講師
4月27日	ヨガにチャレンジしてみませんか？	ロビンソン クミさん
6月1日	ヨガにチャレンジしてみませんか？	ロビンソン クミさん
10月6日	口腔ケア	歯科医 村田好範さん

“見る倉庫”



物品の整理、スタッフのロッカー設置のために倉庫を新たに賃貸したことを契機に、障害者が制作した作品などを展示する“見る倉庫”を設けました。倉庫の中央には、円柱状のロッカー室を設けており、壁紙に

利用者さんの絵画作品を採用、通行人からの注目度も大きくなっています。



開所記念として、「林やよい原画展」を10月26日(火)～11月18日(木)、「ベアトラム・シラー写真展」を11月30日(火)～12月11日(土)まで開催しました。500円の有料としました。

原画展は、重症心身障害者である娘さんとの出来事を温かい視点で描いたイラストを毎日新聞に掲載している林やよいさんの原画展。財団法人毎日新聞大阪事業団と伊丹市教育委員会からの後援をいただきました。入場料と作品販売をあわせた売上は52850円でした。



また写真展は、当法人のスタッフでもあるドイツ人のベアトラム・シラーが1年かけて利用者さんと私たちの活動を記録

した作品を展示しました。こちらも毎日新聞大阪事業団の後援をいただきました。入場料と作品販売は売上10200円でした。

【グループホーム準備施設もくもく】

2011年度の設置を目標として、活発に活動を続けました。特にご家族とスタッフとで設置の方向を探る「輪(つながり)」では、定員や入居に当たっての条件面を話し合いました。

グループホーム、ケアホームについては報酬単価が低く、どこのホームも運営に苦しんでいるようです。しかし、ご家族の高齢化が進むなか、私たちの活動も待ったなしです。

来年度は、物件探しをより活発化し、また利用者さんの生活を最後まで支えるのだという気概を各スタッフが持てるようにミーティングなどの場を活用していきます。

【成年後見人】

スタッフ1名が、件の後見と1件の保佐を受任しています。高齢者2名、障

害者 1 名です。

入院時の洗たくや事務的対応、また近隣とのトラブルなど通常の業務の範囲・時間内では対応が困難な場合も多く、後見以外の多くの業務を抱えたスタッフが個人で複数ケースを受任するには限界があるように思われます。他地域でも状況は同様のようで、この解決のためにいくつかの家裁で法人後見の動きも徐々にですが、活発になってきているようです。大阪家裁管内でも法人後見の動きが期待されます。

社会福祉士の資格を取得するスタッフが年々増加していますが、スタッフ間で後見の受任しようという動きは少なくとも表面上は見られません。若いスタッフ間では賃金労働以外の“業務”を敬遠する傾向が強く、また“余分な”責任が生じる可能性の高い後見受任は、やはり敬遠されるようです。したがって、社会福祉士会では後見受任のための研修会を行っていますが、参加者は当法人からは皆無です。

今後、ますますニーズが高まる分野ではありますが、「福祉という仕事の経験、仕事の幅を広げることになるから受任してみよう」といった意識を求めることはあきらめ、あくまで“賃金労働”“業務”の範囲内で受任が可能となる体制を確立しなければ、多くのニーズの前に制度が崩壊してしまうでしょう。

【被災地支援】

3月11日に発生した東日本大震災において、被災した障害者を支援しようと「ゆめ風基金」を通じてスタッフの派遣を4月下旬より開始しました。

詳細は2011年度報告書に譲りますが、被災地に赴いたスタッフは甚大な被害を前にして言葉を失うと同時に、私たちが一体どれほどの力になれるのかと自問したことと思われま



支援すべきことが毎日目の前にある日常の活動光景とは異なったなかでの障害者支援は、確実にスタッフを成長させることでしょう。しかし、多くのボラ

ンティアが会社を休み、交通費や宿泊費を自己負担して全国から馳せ参じるなか、私たちの支援は、交通費は法人が援助し、有給による支援です。派遣に際しては自発的な申し出者のみを選抜しましたが、被災地ボランティアですら“賃金労働”になりかねない派遣条件については、今後検討が必要でしょう。

【SENDEX2010】

福祉施設での研修や実習を通じて、アジアの福祉の連帯・交流を図る国際福祉交流プログラム「パラム・クム」(風・夢)のPR活動を韓国で行いました。

韓国最大規模の福祉フェア「SENDEX2010」にブース出展。パンフレットを作成して、来訪者に直接配布しました。施設関係者、福祉系大学の関係者らと接触し、PRに努めました。しかし、無料か寸志程度がほとんどの福祉研修を有料化する試みだけに、理解をいただくのには一苦勞。「宿泊先はどうするのか」「飛行機チケットの手配は?」といった質問もあり、さらなる改善が必要と思われました。



一方、多くの元ワーホリスタッフが手伝いに駆けつけてくれるなど、うれしい場面もありました。今後はプログラム内容の改善を続けながら、参加者確保を図ります。

【スタッフ採用】

マイナビを通じて今年度も積極的な採用活動を行いました。その結果、男性5名、女性5名の計10名を採用しました。

今年度は関東圏からは1名にとどまり、関西圏からの採用が多数となりました。就職事情が厳しく、買い手市場とは言われているものの、優秀な学生の採用には数度にわたる採用試験の実施が必要でした。毎回多くの学生と面接をしますが、気力が充実した若者の姿が年々減少しているような印象を受けます。主観的なものではありませんが、不安を感じざるを得ません。また筆記試験についても基本的な問題で低得点の学生が散見されます。企業を含め、ますます新人スタッフの教育研修の重要性が増すものと思われれます。

2011年度への課題

大局的な視点からは課題に変化はありません。スタッフの養成、独自事業、活動の活性化など、福祉制度、経済状況が大きく変化するなかで、私たちに課せられる事柄は表向き変化しないものの、内容・質ともにレベルアップが求められています。

スタッフの養成

次世代の中核となるスタッフの養成が課題です。活動上の目的は特に持たず、活動をあくまで賃金労働としてのみとらえる“会社員のNPOスタッフ”からの脱却を現時点から図ることは、最重要課題でしょう。

さまざまな労働条件の改善も急ぐ必要がありますが、法制度が一定程度まで整備が進むなか、私たちの運営を支える経済的条件は以前と比べれば、格段に充実してきました。それとともに、社会的変革を志向する旺盛な意志がなくとも運営は可能となりつつあります。しかし、このことによって私たちがありきたりな事業所となってしまうえば、私たちの存在意義は失われてしまうでしょう。

独自事業

日本の経済が厳しい局面を迎え、また人口減少が続くなか、福祉に関連した予算は今後増額はされるものの、余裕をもった運営が困難になるでしょう。特に制度自体は充実が図られるものの、予算が伴わないため、例えば認定時間数などの取得に厳しい条件が課される可能性があります。

企業は次々と生産拠点を海外に移していますが、重い障害をもった方々を支援する私たちの責務は、どのような経済状況になろうともこれまでの支援を継続して実施することでしょう。その対応策のひとつとして、国際研修プログラムを独自財源として生かせる事業に育てることを選択しました。2011年度はよりPRに努め、プログラムの成功に向け継続した努力を続けます。

フリースペース“Tamariba”など

自由な発想に基づく活動を行おうと設置したフリースペース“Tamariba”。映画会、フリーマーケット、コンサート、車イスダンス、キッズクラブなどは継続的な活動を続けています。今後それぞれの活動を地域のなかで一定水準の活動に育てて行くためにさまざまな工夫が必要です。リーダーシップをとって各活動を主宰できるスタッフの育成が特に肝要です。

社員総会の開催状況

名 称：「特定非営利活動法人 W I N G-路をはこぶ総会」
日 時：2010年4月7日（水）
場 所：西成区民センター大ホール
正会員数：120人
出席者数：90人
議 案：第1号議案 2009年度決算
第2号議案 2010年度予算
審議結果：全議案について、出席者全員の承認、賛成を得られた。

名 称：「特定非営利活動法人 W I N G-路をはこぶ総会」
日 時：2010年12月15日（水）
場 所：西成区民センター大ホール
正会員数：120人
出席者数：90人
議 案：第1号議案 新卒スタッフの採用
第2号議案 自立支援法に対する対応
審議結果：全議案について、出席者全員の承認、賛成を得られた。

名 称：「特定非営利活動法人 W I N G-路をはこぶ総会」
日 時：2011年4月13日（水）
場 所：西成区民センター大ホール
正会員数：120人
出席者数：90人
議 案：第1号議案 新卒スタッフの採用
第2号議案 2010年度決算
第3号議案 2011年度予算
審議結果：全議案について、出席者全員の承認、賛成を得られた。



理事会の開催状況

日時	出席者	議案	審議結果
2010年4月23日	理事6人	2009年度決算 自立支援法自己負担金	全議案承認

5月25日	理事6人	ヨガ講座 プランミーティング	全議案承認
6月25日	理事6人	採用活動 独日平和フォーラム	全議案承認
7月23日	理事6人	見る倉庫 展覧会 ヘルパー記録の方法	全議案承認
8月25日	理事6人	見る倉庫 展覧会 市監査結果の報告	全議案承認
9月24日	理事6人	見る倉庫 展覧会 SENDEX報告	全議案承認
10月25日	理事6人	HPリニューアル フリマ	全議案承認
11月25日	理事6人	記録方法 記録ソフトの検討	全議案承認
12月24日	理事6人	ヘルパー実習 感染症について	全議案承認
1月25日	理事6人	スタッフ面談 採用試験	全議案承認
2月25日	理事6人	内定者について 写真展	全議案承認
3月25日	理事6人	研修報告 2011年度予算	全議案承認

監査報告書

監 査 報 告 書

2011年6月30日

特定非営利活動法人 W・I・N・G 一路をはこぶ

代 表 理 事 菅野 眞弓 様

特定非営利活動法人 W・I・N・G 一路をはこぶ

監 事 梁 英 子 

私は 2010 年 4 月 1 日から 2011 年 3 月 31 日までの第十期会計年度に
おける会計および業務の監査を行い、次の通り報告いたします。

1. 貸借対照表、収支計算書、財産目録について、法人の収支および財産の状況を正しく示しているものと認める。
2. 事業報告書の内容は真実であると認める。

以上